

はじめに

一般に医学用語と法律用語は難しいといわれます。

30年ぐらいい前に『白い巨塔』の著者で有名な山崎豊子さんとお会いしてお話をすることがあります。山崎豊子さんは『白い巨塔』を書くときに難解な医学用語にたいへんご苦労されたと仰っていました。

医学の世界では医学の世界だけで使う独特の言葉があります。

たとえば「手術」を「外科的侵襲」^{げかてきしんしゆう}、「苦しんで呻くこと」を「呻吟」^{しんげん}、足の裏などにできる硬い皮膚「タコ」を「胼胝」^{べんち}などといいます。

医学用語が難しいのは、日本の医学は中国の漢方医学からきているために難解な漢字が多いことと、オランダ医学・ドイツ医学を日本の医学者が翻訳したときに難しい漢字を使ったためです。

医者同士であれば専門用語で構わないのですが、医学に馴染みがない患者さんは医学的専門用語はわかりません。

患者さんにわかりやすい説明ができる医者は名医といわれますが、難しい医学専門用語をわかりやすく説明するのは頭のよさだけでなく「患者さんに理解していただく」という優しさが必要です。

医者同士が話す場合には、悪性の病気は「がん」「癌」がん「悪性新生物」あくせいしんせいぶつ「悪性腫瘍」あくせいしゅりょう「C A (carcinoma)」
「クレブス (Krebs : ドイツ語)」などといいます。本書では「癌」に統一しました。

読者の方には「癌」が一番わかりやすいと思ったからです。

厳密に言えば「癌」は胃や食道などの表面の細胞 (上皮細胞)じょうひびょうぼう から発生する悪性腫瘍、「がん」はすべての悪性腫瘍を指すのですが、実際には「癌」と「がん」はあまり区別しないで使われています。

本書を書くために何冊かの医学書を熟読しましたが、これほど医学書を読んだのは大学医学部以来です。

現代は情報化社会で、情報が溢れかえっており、医学も例外ではありません。情報を得るためには「Google」「Yahoo!」「ChatGPT」「Chordooo」など多くのツールがあります。

本書を書いて最も苦労したのは「正確な情報」「わかりやすい説明」「読みやすい文章」です。ネット情報は無数にありますが、残念ながら正確な情報はごくわずかです。

医学書のような書籍は執筆者だけでなく、出版社をはじめ多くの関係者の校閲 (内容の緻密な確認) が入っています。

現代はパソコン、スマートフォンなどの普及以来、誰でも情報を発信することができ、とくにソーシャルメディアが広まって情報の正確さに対するハードルがかなり下がってきました。

情報過多の時代に「正確でわかりやすい医学情報」を書くことは困難ではありましたが、現在でも現役の医者をしている私には得るところが多かったです。

因みに、本書を書くために2台のデスクトップパソコン、2台のラップトップパソコン、タブレット、スマートフォンを使用しました。

そのお陰でITリテラシーが向上したのは予期しない副産物でした。

本書では一般の方々にあまり馴染みのない病気の説明は省き、よく遭遇する病気だけの説明にしました。

本書が読む人の役に立つことを心から願っています。